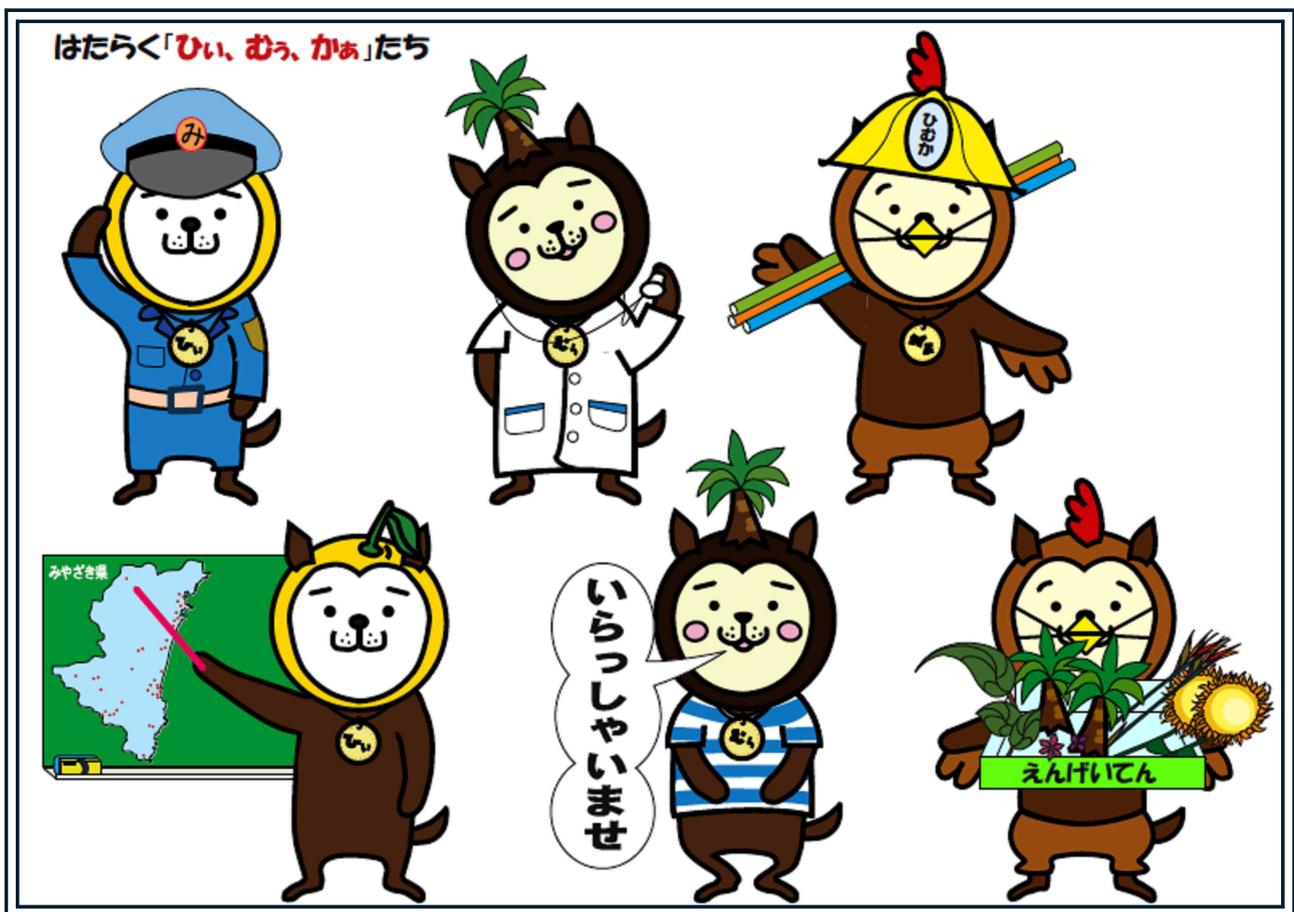


宮崎県キャリア教育ガイドライン

小・中・高等学校等12年間を見通した
宮崎のキャリア教育



平成25年1月
宮崎県教育委員会

はじめに ～宮崎のキャリア教育の推進～

今日、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず児童生徒の進路を取り巻く環境は大きく変化しています。さらに、児童・生徒の勤労観・職業観の希薄化や社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質を培ううえでの課題、資質・能力の発達の遅れをめぐる課題、高い早期離職率、多くの若者がフリーターやニートであることなどが社会問題となっています。

また、子どもたちの中には、将来に不安を感じ、学校での学習と自分の将来との関係に意義が見い出せずに、学習意欲が低下し、学習習慣が確立していないといった状況があることも指摘されています。

このような状況を解決していくためには、児童・生徒一人一人が「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立し、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることが重要であり、これまで以上にキャリア教育を推進することが望まれています。

現在、本県では、時代の変化に伴う課題やニーズに対応するため、今後10年間に目指す本県教育の姿と、その実現のために取り組むべき施策を総合的・計画的に示した第二次宮崎県教育振興基本計画（平成23年6月）を策定し、その中でもキャリア教育の推進を重点施策として取り組んでいるところです。

その取組の一つとして、平成23年度、宮崎県学校教育改革推進協議会におきまして、「小・中・高等学校等、12年間を見通した宮崎にふさわしいキャリア教育の推進の在り方について」というテーマで御協議いただき、協議のまとめとしての報告（平成24年2月）をいただいたところです。

笑顔で登校する子どもたちのランドセルやかばんには、教科書や学用品とともに子どもたちの様々な「願い」や「思い」が詰まっています。また、同時に、健やかに育ててほしいという保護者や家族の皆様、更には県民の皆様方の様々な「期待」や「願い」も詰まっています。そのランドセルやかばんを「充実感」と「明日への希望」でいっぱいにして下校させることが学校の使命と考えております。

県教育委員会では、この「充実感」と「明日への希望」をいっぱいにするために宮崎県学校教育改革推進協議会からいただいた御提言を踏まえ、小・中・高等学校等12年間を見通した宮崎にふさわしいキャリア教育の推進のため、「宮崎県キャリア教育ガイドライン」を策定いたしました。

本書が、小・中・高等学校等において広く活用され、宮崎の子どもたちが「宮崎で育ってよかった」、「宮崎の学校で学んで良かった」との思いを抱くことができるよう、宮崎のキャリア教育を強く推進してまいります。

宮崎県教育委員会教育長
飛田 洋

キャリア教育のとびら

もう一度思い返してください。

なぜ先生になろうと思ったのか…
何を子どもたちに伝えたいと思ったのか…
どんな子どもたちを育てたいと思ったのか…

考えてみてください。

学校は何をすべきところなのか…
何を身に付けさせるところなのか…

思い描いてください。

社会に出た子どもの姿を…
厳しい社会の中で歯を食いしばって働く姿を…
やりがいをもって生き生きと働く姿を…

トピック：飛田教育長のことは

できないことを背伸びしてやる。
できないかもしれない。
しかし、
できるように苦勞しているとき、
人は伸びる。
能力が…脳力が…伸びる。

教育の在り方が未来に反映されるのは、
間違いないことで、
教育は国づくりの最高手段であり、
最もすばらしい芸術行為です。

目 次

はじめに ～宮崎のキャリア教育の推進～

- キャリア教育のとびら

I キャリア教育の必要性

- 1 キャリア教育が求められる背景 1

II キャリア教育とは何か？

- 1 キャリア教育の定義 2
- 2 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力＝「基礎的・汎用的能力」 2
- 「基礎的・汎用的能力」の具体的な内容・要素 3

III 宮崎のキャリア教育

- 概念図 4
- 宮崎のキャリア教育の目標・方針・具体的方策 5

IV 「縦」の連携

- 概念図 6
- ◆ 学校の取組 7
- ◆ 県教育委員会の取組 8

V 「横」の連携

- 概念図 9
- ◆ キャリア教育推進事務局(県教育委員会)の取組 10
- ◆ 学校の取組 11

VI ふるさと宮崎に学び、誇りや愛着を育む教育

- 地域のよさや課題についての理解を深める「ふるさと学習」の推進 12
- キャリア教育の意義の普及・啓発と推進 13

VII 充実したキャリア教育を進めるために

- キャリア教育における体験活動の在り方 14
- 校内研修の充実 16

- キャリア教育の参考資料 18

I キャリア教育の必要性

1 キャリア教育が求められる背景

○総人口に占める子ども・若者(0~29歳)人口の割合--- 昭和45年 51.7%⇨平成23年 28.5%

○若年労働力人口 ----- 平成14年 1,488万人⇨平成23年 1,114万人

(15~29歳の子ども・若者のうち、就業者と完全失業者をあわせたもの)

○若年無業者数 ----- 平成23年 **60万人**

(15~34歳の非労働力人口のうち、**家事も通学もしていない者**)

「平成24年版 子ども・若者白書」内閣府 より

情報化・グローバル化・少子高齢社会・消費社会等

学校から社会への移行をめぐる課題

- ①社会環境の変化
 - ・ 正規の従業員として採用されないなど、新規学卒者に対する求人状況の変化
 - ・ 求職希望者と求人希望との不適合の拡大
 - ・ 人材育成にかかる費用を縮小するなど雇用システムの変化
- ②若者自身の資質等をめぐる課題
 - ・ 勤労観、職業観の未熟さと確立の遅れ
 - ・ 社会人、職業人としての基礎的資質・能力の発達の遅れ
 - ・ 社会を構成する一員としての経験不足と社会人としての意識の未発達傾向

子どもたちの生活・意識の変容

- ①子どもたちの成長・発達上の課題
 - ・ 身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
 - ・ 生活体験・社会体験等の機会の減少
- ②高学歴社会の中で、進路決定が遅れる傾向
 - ・ 職業について考えることや、職業の選択、決定を先送りにする傾向の高まり
 - ・ 自立的な進路選択や将来計画が希薄なまま、進学、就職する者の増加

学校教育に求められている姿

「生きる力」の育成

～確かな学力、豊かな人間性、健康・体力～

- 社会人として自立した人を育てる観点から
 - ・ 学校の学習と社会とを関連づけた教育
 - ・ 生涯にわたって学び続ける意欲の向上
 - ・ 社会人としての基礎的資質・能力の育成
 - ・ 自然体験、社会体験等の充実
 - ・ 学校種間をつなぐ指導の継続性
 - ・ 家庭・地域と連携した教育

キャリア教育の推進

Ⅱ キャリア教育とは何か？

1 キャリア教育の定義

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達※を促す教育」

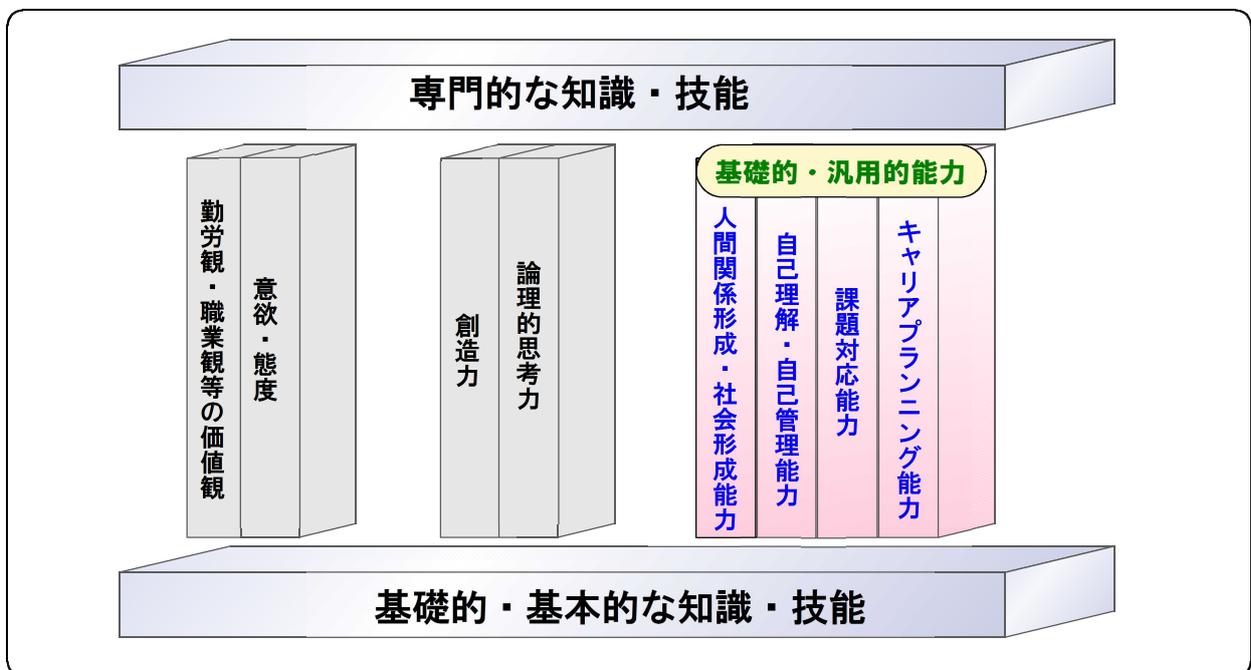
※キャリア発達：

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

(中央教育審議会答申 平成23年1月)

2 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力＝「基礎的・汎用的能力」

社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素は、下図のように構成されています。



基礎的・汎用的能力は、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力です。

基礎的・汎用的能力の具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つです。

学校教育においては、基礎的・基本的な知識・技能や専門的な知識・技能とともに、子どもや若者がどのような状況におかれても、社会に適応したり、置かれている状況を自分で打ち破ったりしながら、社会の中で自分の能力を発揮できるようにする必要があります。

このため、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力＝「基礎的・汎用的能力」や、同じく基盤となる態度を育成することが極めて重要です。

■「基礎的・汎用的能力」の具体的な内容・要素

人間関係形成・社会形成能力

この能力は、社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力です。特に、価値の多様化が進む現代社会においては、性別、年齢、個性、価値観等の多様な人材が活躍しており、様々な他者を認めつつ、それらと協働していく力が必要です。また、変化の激しい今日においては、既存の社会に参画し、適応しつつ、必要であれば自ら新たな社会を創造・構築していくことが必要です。さらに、人や社会とのかかわりは、自分に必要な知識や技能、能力、態度を気付かせてくれるものでもあり、自らを育成する上でも影響を与えるものです。

具体的な要素（例）：他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど。

自己理解・自己管理能力

この能力は、子どもや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力です。また、変化の激しい社会にあって多様な他者との協力や協働が求められている中では、自らの思考や感情を律する力や自らを研鑽する力がますます重要です。これらは、キャリア形成や人間関係形成における基盤となるものであり、とりわけ自己理解能力は、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要があります。

具体的な要素（例）：自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント※、主体的行動など。

※ ストレッサーに対する人間の心身のメカニズムや反応を理解し、ストレス反応を軽減あるいはストレス障害の予防や回復を行うことをいう。（文部科学省）

課題対応能力

この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものです。また、知識基盤社会の到来やグローバル化などを踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力です。さらに、社会の情報化に伴い、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることも重要です。

具体的な要素（例）：情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など。

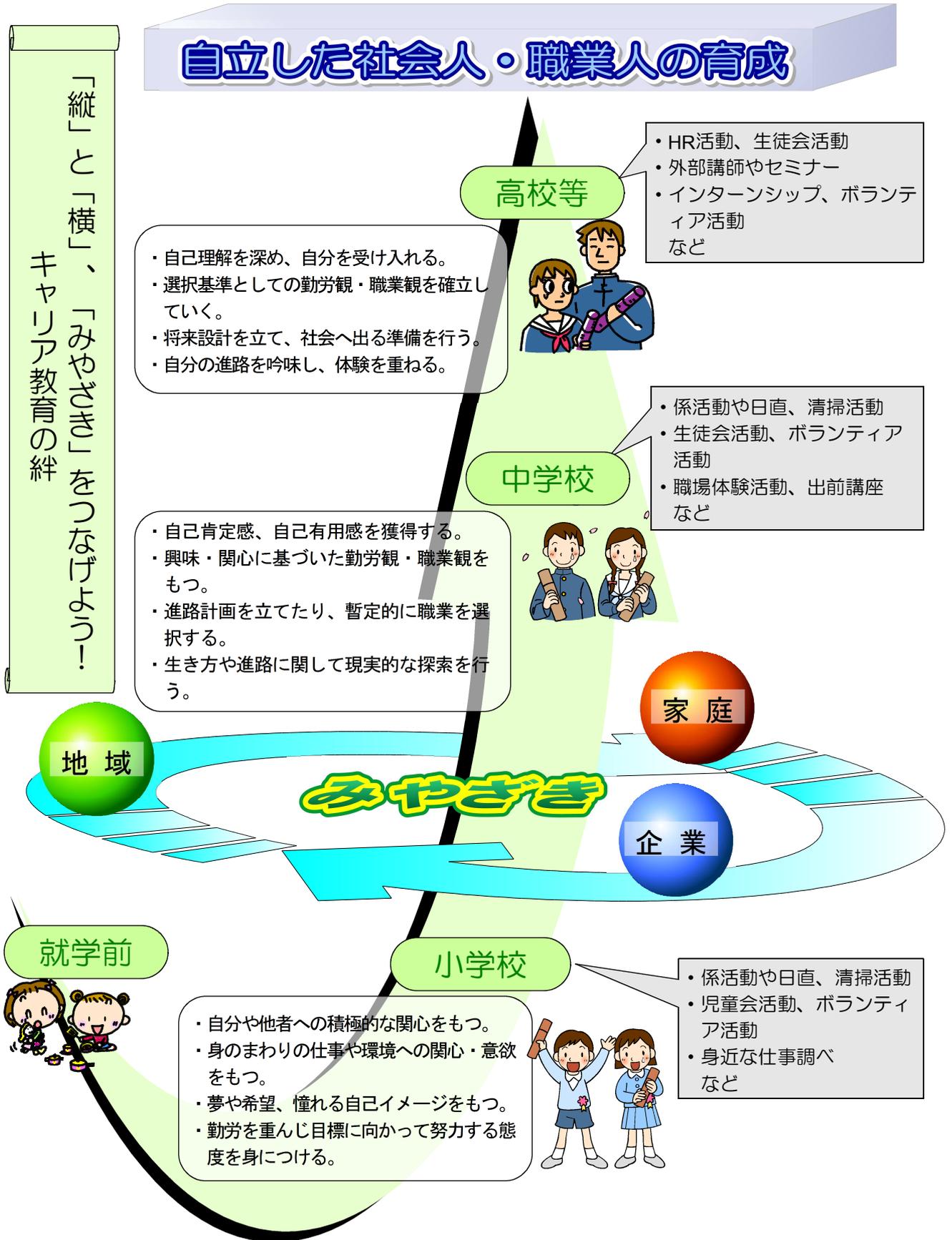
キャリアプランニング能力

この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力です。

具体的な要素（例）：学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など。

III 宮崎のキャリア教育

■概念図



1 目 標

自立した社会人・職業人の育成

2 方 針

- (1) 小・中・高等学校等の『縦』の連携を図りながら、発達の段階に応じたキャリア教育を進める。
- (2) 学校と家庭・地域社会・企業等との幅広い『横』の連携を図りながら、キャリア教育を進める。
- (3) 宮崎県の産業、地域性に配慮し、宮崎県独自の課題やニーズに対応したキャリア教育を進める。

3 具体的方策

- (1) 『縦』（小・中・高等学校等）の連携
 - 各学校にキャリア教育推進委員会やキャリア教育推進リーダーを設置するなど、キャリア教育の推進体制の整備に努めます。
 - 学校の校内研修のサポートや県主催の研修会を開催するなど、各学校におけるキャリア教育充実の支援に努めます。
 - 指導計画の作成や実践事例等について参考となる資料を提供するなど、各学校のキャリア教育推進の支援に努めます。
 - 職場体験活動やインターンシップの5日間以上の実施、事前・事後指導の充実を図るなど、キャリア教育の質的充実を目指します。
 - 小・中・高等学校等一貫したキャリア教育の充実のため、校種間の理解を深める場を設定するなど、キャリア教育の視点で小・中・高等学校等をつなぐ校種間連携システムの構築を目指します。
 - 小・中・高等学校等一貫したキャリア教育に関する相談・質問等ができる体制づくりを行うなど、各学校のキャリア教育推進の支援に努めます。
- (2) 『横』（学校と家庭・地域・企業等）の連携
 - 学校と地域社会・企業等との連携を図るための県版リーフレット等を作成するなど、キャリア教育の啓発に努めます。
 - 県として学校と企業等を結ぶための中心となる組織の設置を検討するなど、産業界と学校との連携がより緊密となるよう働きかけます。
 - 学校と家庭・地域の教育力をつなぐ組織の設置を検討するなど、地域の特性に応じたキャリア教育の支援に努めます。
- (3) 宮崎県独自のキャリア教育
 - 地域の教育資源を活用し、地域の良さや課題について理解を深める「ふるさと学習」を取り入れたキャリア教育の実践を紹介するなど、宮崎らしいキャリア教育の推進に努めます。
 - 学校、保護者及び企業関係者等を対象とした宮崎の人材育成に関するフォーラムやシンポジウムの開催を検討するなど、広く啓発に努めます。

IV 「縦」の連携



自立した社会人・職業人の育成

これまでの取組や今後の取組など教育活動全体をキャリア教育の視点から見直す

高等学校等

- ・全体計画の作成
- ・年間指導計画の作成
- ・計画に基づくキャリア教育の推進

キャリア教育推進委員会の設置 ↔ キャリア教育推進リーダー

- ・校内研修の実施
- ・小・中学校との連携

中学校

- ・全体計画の作成
- ・年間指導計画の作成
- ・計画に基づくキャリア教育の推進

キャリア教育推進委員会の設置 ↔ キャリア教育推進リーダー

- ・校内研修の実施
- ・小・高等学校等との連携

小学校

- ・全体計画の作成
- ・年間指導計画の作成
- ・計画に基づくキャリア教育の推進

キャリア教育推進委員会の設置 ↔ キャリア教育推進リーダー

- ・校内研修の実施
- ・中・高等学校等との連携



**地区
キャリア
教育支援
センター**

地区キャリア教育
コーディネータ

◆ **学校の取組** P7

◆ **県教育委員会の取組** P8

◆ 学校の取組

キャリア教育の視点を取り入れた教育活動全体の見直し

新しいことを始めるのではなく、まずは現在行っている教育活動をキャリア教育の視点で見直すことが大切。→基礎的・汎用的能力の育成を意図した教育の視点で見直しましょう。

<学校での取組（例）>

- 各教科等の学習内容をキャリア教育の視点で見直す。
- 朝の会、帰りの会などの日々の教育活動や、各種行事、部活動などをキャリア教育の視点で見直す。
- キャリア教育の全体計画、年間指導計画を全職員で作成する。
- 効果的な職場体験活動やインターンシップの在り方を検討し、積極的に拡充を図る。

キャリア教育推進委員会の設置

各学校でキャリア教育を推進するための委員会を設置しましょう。

<キャリア教育推進委員会（例）>

- 既存の各種委員会をキャリア教育の視点から活用するなど、各学校で創意工夫しながら設置する。
- 各学校におけるキャリア教育の目標や、基礎的・汎用的能力を踏まえた、各学校が育成すべき能力や態度を検討し、全体計画・年間指導計画の素案を作成する。
- 学校のキャリア教育を、計画に基づいて推進するための中心組織となる。

キャリア教育推進リーダーの位置付け

学校の中心となってキャリア教育を推進するリーダーを位置付けましょう。

<推進リーダーの役割（例）>

- 学校の中心となってキャリア教育の推進を図るとともに、リーダーシップを発揮し、学校のキャリア教育推進委員会を主宰する。
- 小・中・高等学校等との連携を図る。
- 地区キャリア教育コーディネータとの窓口となる。
- 職場見学、職場体験活動、インターンシップ等の活動を、中心となって進めるなど、各学校で創意工夫しながらキャリア教育の推進を図る。

◆ 県教育委員会の取組

地区キャリア教育支援センターの設置

県教育委員会が中心となり、地域の特性を生かした地区キャリア教育支援センターの設置を検討します。

＜地区キャリア教育支援センターのはたらき（例）＞

- 各学校のキャリア教育推進リーダーを招集し、地域に応じたキャリア教育の実施や研修のため、地域キャリア教育推進会議を開く。
- 小・中・高等学校等の職場見学や職場体験活動、インターンシップ等の支援を行う。
- 地域の小・中・高等学校等のつながりを意識し、地域の特色を生かしたカリキュラムの検討を行う。
- 家庭や地域、企業などへキャリア教育の啓発を行う。

- 地区キャリア教育支援センターの設置、運営に関しては、各市町村の状況に応じて検討する。
- 小・中学校で現在活動している「学校支援地域本部」を活用することも考えられる。

地区キャリア教育コーディネータの配置

各学校のニーズに対応するとともに、小・中・高等学校等をつないだキャリア教育の支援を行う人材の配置に努める。

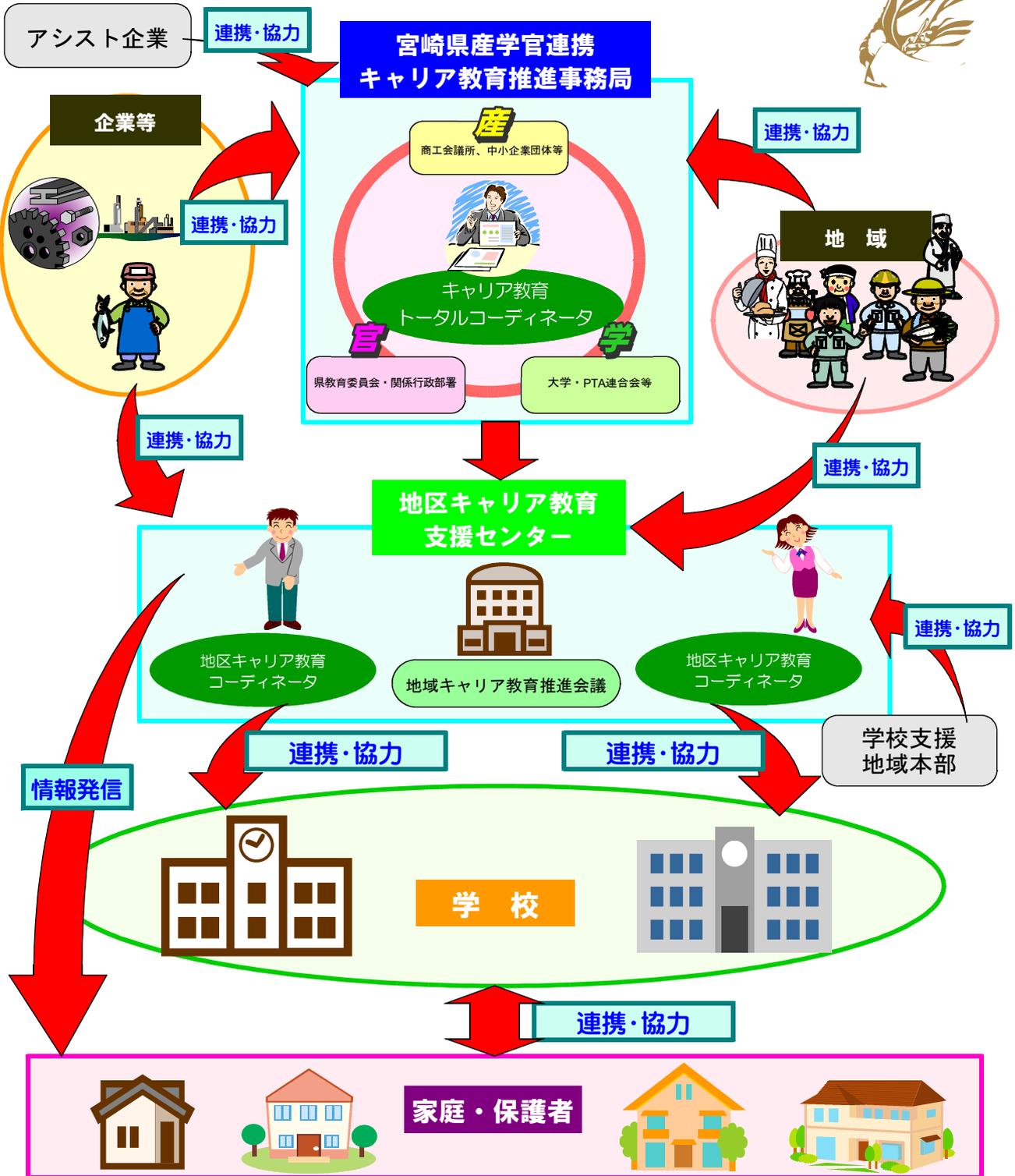
＜地区キャリア教育コーディネータの役割（例）＞

- コーディネータは、小・中・高等学校等が円滑に連携できるように積極的に支援する。
- コーディネータは、小・中学校の職場見学や職場体験活動の運営や事前・事後指導の支援を行う。
- コーディネータは、各学校のキャリア教育推進リーダーを招集し、地域の特性を生かした地域キャリア教育推進会議を主宰する。
- コーディネータは、地域の小・中・高等学校等のつながりを意識したカリキュラムの検討を行う。
- コーディネータは、家庭や地域、企業などへのキャリア教育の啓発活動を行うとともに、協力体制づくりに努める。
- コーディネータは、各学校の職員からのキャリア教育に関する相談や質問などに対応する。

- 小・中学校で現在活動している「学校支援地域本部」の地域支援コーディネータを活用することも考えられる。

V 「横」の連携

自立した社会人・職業人の育成



◆ キャリア教育推進事務局
(県教育委員会) の取組 P10

◆ 学校の取組 P11

◆ キャリア教育推進事務局（県教育委員会）の取組

宮崎県産学官連携キャリア教育推進事務局の設置

学校のキャリア教育を支える組織として、産業界からの情報を発信しネットワーク化を図りながら学校と企業等とを結ぶ「宮崎県産学官連携キャリア教育推進事務局」を設置するよう働きかけます。

「宮崎県産学官連携キャリア教育推進事務局」設置の例

1 概要

本県のキャリア教育の進展を図るために、学校と地域・産業界とを総合的につなぐ機関として「宮崎県産学官連携キャリア教育推進事務局」を設置する。

本事務局は、県内の学校、産業界や諸団体、行政機関と連携を図りながら、学校のキャリア教育を支援する活動を行う。

2 役割

本事務局には、キャリア教育トータルコーディネータが常駐し、キャリア教育について県内の産業諸団体などへの情報提供や意見交換等を通して、本県教育に対する理解を促し、教育界への協力体制を確立するなど、本県のキャリア教育の充実・推進を図る。

<キャリア教育トータルコーディネータの役割>

① 産業界に対して

- ・ キャリア教育について、国や県の動向の案内や周知等
- ・ 中学校の「職場体験活動」や高校の「インターンシップ」、「ジョブシャドウイング」※等のねらいと目的の周知及び受け入れの協力依頼・調整・開拓・ヒアリング等
- ・ 学校におけるキャリア教育の取組の成果や課題についての情報提供

※ 職場の人と行動をともにして仕事の様子などを観ること。

② 学校に対して

- ・ 中学校の「職場体験活動」や高校の「インターンシップ」、「ジョブシャドウイング」等を受け入れた企業、事業所から指摘された問題や課題等の情報収集
- ・ 変化し続ける経済社会の中、児童生徒が将来、自立した職業人となるために必要な資質や能力等についての情報提供

③ 教育庁などの行政機関に対して

- ・ 産学官連携に必要な官の具体的役割についての提案
- ・ 国や本県の企業の動向や、経済状況などについての情報収集と提供

④ 地区コーディネータとの連携

- ・ 地区コーディネータに対する指導・助言
- ・ パイロット地区の取組の成果等の情報発信

3 宮崎県キャリア教育推進協議会

(1) 目的：本県の産業界、教育界、行政等の代表者による本県キャリア教育推進に関する諸課題等について協議を深め、本県の本県による本県のためのキャリア教育の進展を図る。

(2) 組織構成

産業界：宮崎県経営者協会 宮崎県商工会議所連合会 宮崎県商工会連合会
宮崎県中小企業団体中央会 宮崎経済同友会 宮崎県工業会 他

教育界：県立・公立学校長会、宮崎県PTA連合会 大学コンソーシアム 他

行政：県教育委員会、商工観光労働部、宮崎県市町村教育長連絡協議会 他

幹事：県教育庁学校政策課

◆ 学校の取組

これまでの家庭や保護者、地域などと連携した取組の見直し

新しいことを始めるのではなく、まずは現在行っている取組をキャリア教育の視点で見直すことが大切です。

<学校での取組（例）>

- ふるさと学習やボランティア活動、保護者による職業講話などをキャリア教育の視点で見直す。
- 職場体験活動やインターンシップの意義を踏まえ、家庭や保護者、地域と連携したキャリア教育を実践する。

家庭や保護者、企業等との連携の推進

学校のキャリア教育に対する理解を深めるための情報提供や、地域がもつ教育的資源の活用により、学校と家庭・地域・企業等が積極的に連携することが求められます。

<連携を図る実践（例）>

- キャリア教育の重要性や具体的な取組を周知するためのリーフレットを作成し家庭や地域に配付する。
- 地域の社会施設や地域で活動する団体などと積極的な連携を図る。
- 現在行われている県の「アシスト事業」※の更なる活用も含め、企業等が持つ専門性や人材などの教育資源を活用する。

※ 企業の力を教育に！「宮崎の教育」アシスト事業

アシスト事業 宮崎

検索

キャリア教育推進事務局や地区キャリア教育支援センターとの連携の推進

学校のキャリア教育をより円滑に進めるために、宮崎県産学官連携キャリア教育推進事務局や地区キャリア教育支援センター、地区コーディネータと連携を図り、より質の高いキャリア教育の推進に努めましょう。

<連携を図る実践（例）>

- 職場見学や職場体験活動、インターンシップの意義を踏まえ、充実を図るよう調整や協力を依頼する。
- 外部人材を活用した授業について、人材の派遣や授業づくりについて相談する。

VI ふるさと宮崎に学び、誇りや愛着を育む教育

■ 地域のよさや課題についての理解を深める「ふるさと学習」の推進

それぞれの地域で現在行っている「ふるさと学習」（地域学）をキャリア教育の視点で再構築し、地域のよさや課題についての理解を深めるとともに、課題解決に参画する意識を高めるキャリア教育を推進します。

<実践（例）>

- 各地域で行われている「ふるさと学習」（地域学）を、キャリア教育の視点で見直し、基礎的・汎用的能力を培う視点で計画や内容、方法などについて検討する。
- 地域の活動に積極的に参加するとともに、地域の教育的資源を積極的に活用する。（地域の教育的資源の開発）
- キャリア教育の視点で「ふるさと学習」を捉え実践したものを、事例集にまとめ配付する。

★ ふるさと学習（地域学）におけるキャリア教育の視点

ふるさと学習（地域学）におけるキャリア教育の視点については、「学習指導のための要領・解説―地域学編―」（平成19年8月 宮崎県教育委員会）において、次のように述べられています。

2 地域学創設の背景

現在、地域社会において、若年層の流失を課題としている自治体も少なくない。このような地域では、地域の存続に危機感をもっており、地域住民は、地域で育てた子どもたちが、ふるさとに愛情と誇りをもち、ふるさとの未来をみつめ、ふるさとに貢献する気概をもった人材となることを期待している。（中略）

しかし、地域を学びの場としてとらえ、地域とのかかわりの中で、地域理解を通して自分の生き方や進路を主体的に考える「自分さがし」の視点を意識した学習は行われていない。

そこで、これらの課題の解決を図るために、地域学においては、次の3点を目指している。

- ① 教育の質の向上 ② ふるさと教育の推進 ③ キャリア教育の推進

「教育の質の向上」においては、小・中・高等学校が連携・接続を図りながら、12年間の中で、一貫性のある到達目標の設定や継続的な指導を行うことで、より質の高い教育を提供するとともに、「知」・「徳」・「体」の調和のとれた児童生徒の育成を目指している。

「ふるさと教育の推進」においては、児童生徒の実態や地域の特性等を踏まえ、地域の教育資源を活用した特色ある教育課程の編成と、地域に根ざした教育活動を展開することにより、ふるさとを愛しふるさとに自信と誇りをもち児童生徒の育成を目指している。

さらに、「キャリア教育の推進」においては、地域とのかかわりをもちながら、地域を通して「自分さがし」を行うことで、地域の未来と自分の将来とを結び付け、自分の生き方について考える児童生徒の育成を目指している。

このように、地域の願いや、既存教科等における課題を踏まえ、小・中・高等学校において、系統性・一貫性をもった目標及び学習内容等を明確に位置づけた新しい教科を開発することにより、ふるさとを愛し、自分に自信と誇りをもち、夢や希望を抱いて、ふるさとに貢献する気概をもつ人材の育成が図られるものと考え、新教科「地域学」を創設した。

■ キャリア教育の意義の普及・啓発と推進

学校、家庭、地域、企業等が一体となって宮崎県全体でキャリア教育を推進し、児童生徒を育てていこうとする気運を高めます。

<普及・啓発（例）>

- フォーラムやシンポジウムなどを行政や地域社会、企業等と共同で開催する。
- 宮崎県産学官連携キャリア教育推進事務局において、企業等の情報発信を行う。
- 小・中・高等学校等で活用できる実践事例集（高齢社会や医師不足など、宮崎の課題をとらえた実践等）を作成する。

VII 充実したキャリア教育を進めるために

■ キャリア教育における体験活動の在り方

(1) 体験活動の充実

体験活動の充実については、学校教育法の改正（H13.7.11）が行われ、小・中・高等学校等において、児童生徒の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとするのが新たに規定され、多様な体験活動の充実に努めることが求められています。

(2) 効果的な職場体験活動、インターンシップの在り方

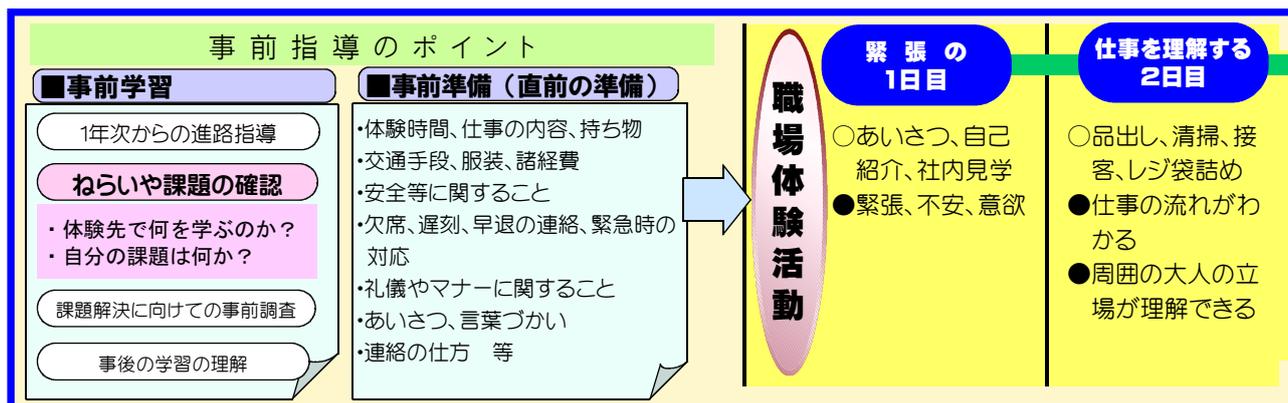
職場体験活動やインターンシップは、体験を重視した教育の改善・充実に努める取組の一環として重要な役割を担うものであり、学校から社会へ移行するために必要な基礎的資質や能力を育む上で、有効な学習の機会です。

小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達と職場体験活動等の関連(例)

小学校	中学校	高等学校
キャリア発達段階		
進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
体験的活動(例)		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の探索 ・家族や身近な人の仕事調べ ・見学 ・インタビュー ・商店街での職場見学 ・中学校の体験入学 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族などの職業聞き取り調査 ・連続した5日間の職場体験活動 ・子ども参観日 ・ジョブシャドウイング ・上級学校体験入学 	<ul style="list-style-type: none"> ・連続した5日間のインターンシップ ・学校の学びと職場実習を組み合わせで行うデュアルシステム ・上級学校の体験授業 ・企業訪問・見学

「中学校キャリア教育の手引き」文部科学省 より作成

■ 効果的な職場体験活動、インターンシップの流れ(例)



(3) 事前指導から事後指導への展開

職場体験活動やインターンシップを一過性のもので終わらせないためには、事前指導及び事後指導が大変重要です。しかし、事前指導が「事前準備」、事後指導が「直後の指導」として終わってしまう学校も見られます。なぜ行うのか？何を学ぶのか？その意義やねらいを生徒が十分に理解し、自分なりに目標や課題をもって臨むことができるように指導することが大切です。

(4) 職場体験活動やインターンシップの実施期間

職場体験活動やインターンシップの質を高めるために、5日間以上の実施を目指しましょう。



○ 職場体験活動・インターンシップ実施状況

中学校 ※平成27年度調査 (%)	実施期間			高校(公立) ※平成27年度調査 (%)	実施期間		
	1日～2日	3日～4日	5日以上		1日～3日	4日～10日	11日以上
宮崎県	57.3	40.5	2.2	宮崎県	63.4	23.9	12.7
全国	40.4	40.4	19.2	全国	77.6	19.7	2.8

○ 5日間以上の職場体験やインターンシップが推奨されるのは？

● 充実した体験を実践するためには、ある程度の期間が必要。

緊張の1日目、仕事を理解する2日目、仕事に慣れる3日目、創意工夫の4日目、充実・満足の5日目。

● 5日間以上という長さが、生徒の心に変容を生む。

新たな発見や失敗、つまずきなど、これまでにない体験を通して、職業の厳しさやそれを乗り越える喜びなどの片鱗に触れることで、達成感や満足感を得ることや自信、自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など、様々な効果が期待できる。

仕事に慣れる 3日目

- ポップの作成、販売、店内放送
- 分からないことが聞けるようになる
- 自分から進んで行動し、役割を果たす

創意工夫の 4日目

- 3日目と同様の仕事
- つまずき、失敗
- 精神的、肉体的疲労
- 新たな発見

充実・満足の 5日目

- 体験先の思いを踏まえた主体的な活動
- 自分や大人を客観的に見つめる
- 達成感、満足感

事後指導のポイント

■ 直後の指導

- ・ 職場体験活動記録のまとめ
- ・ 礼状作成
- ・ 報告書の作成 等

■ 事後学習

- ・ 課題解決のためのまとめ
- ・ 学級での議論
- ・ 新たな課題づくり
- ・ 体験の吟味 等

■ 職場体験活動発表会

■ 校内研修の充実

キャリア教育を充実させるためには、学年や学級、教科を越えて相互に協力したり、意見を交換するなど、全職員が十分にコミュニケーションをとって、自校のキャリア教育の目標や指導計画と一緒に作成するプロセスが大切です。キャリア教育を推進するためには、まずは教職員の意識を一つにすることが、キャリア教育推進の第一歩なのです。

そのためには、これまでの担当者が1人で作り、全体に提案するという形式から、全員が指導計画等の作成に参加する、ワークショップ形式の研修に変えてみるのが有効な手段です。

「目指す児童生徒の姿」作成 ワークショップ研修の展開例 (中学校)

1 目的

自校の生徒が社会的・職業的自立を迎える時期をイメージして「目指すべき生徒の姿」(＝「キャリア教育の目標」)を考える。

2 展開

時間(分)	ねらい	手順	留意点	準備物
Step1 アイスブレイキング				
10	○研修のねらい、流れ、手順等の確認とメンバーの受容的な雰囲気作り	①グループを作る。 ②アイスブレイク(教師になった理由、教師になってよかったことなどテーマを決めて自己紹介を行う)をする。 ③役割(司会、記録、発表者等)を決める。	●4～5名のグループを作る。 ●あらかじめ時間を決めて行う。	□タイム
Step2 洗い出し&整理				
25	○自校の生徒の「現状」の洗い出しと整理 	「生徒の現状を考える」 ①生徒の様子を思い浮かべ、各自が付箋紙にできるだけたくさん書く。 ②模造紙に貼りながら、類似したものを他のメンバーも貼っていく。 ③類似したものを線で囲み、それぞれの囲みにタイトルを付ける。	●長所と短所をともに出す。付箋紙は色を変える。 ●付箋紙は1人10枚を目標にする。 ●声を出し、コミュニケーションを図りながら行う。	□模造紙 □付箋紙 □ペン □タイム
25	○「目指すべき生徒の姿」の洗い出しと整理	「目指すべき生徒の姿を考える」 ①「生徒の現状」をもとに、「目指すべき生徒の姿」を各自が付箋紙にできるだけたくさん書く。 ②模造紙に貼りながら、類似したものを他のメンバーも貼っていく。 ③類似したものを線で囲み、それぞれの囲みにタイトルを付ける。 ※タイトルを矢印で結ぶなどグループ化し、さらに大きいタイトルをつける。	●生徒が社会的・職業的自立を迎える時期をイメージしながら、生徒が中学校卒業時点の姿を考える。	
20	○全体で「目指すべき生徒の姿」をまとめる	①各班で出た意見を発表する。 ②参加者全体で「目指すべき生徒の姿」から自校の「キャリア教育の目標」を決める。	●意見を言いながら全体で決定する。	
Step3 まとめ				
10	○ふり回り	①全体でふり回り、決定、共有を行う。		

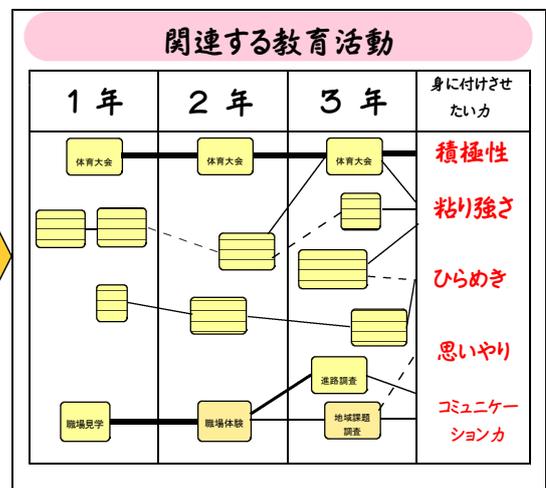
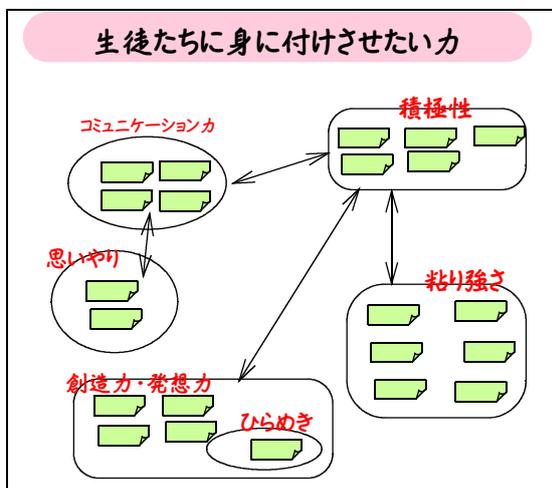
「キャリア教育全体計画」作成 ワークショップ研修の展開例 (中学校)

1 目的

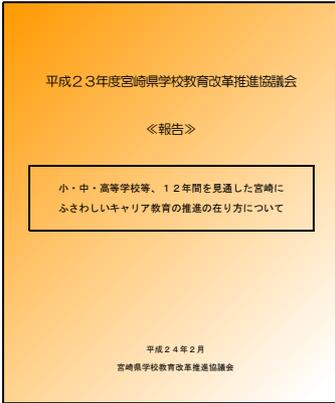
「目指すべき生徒の姿」(＝「キャリア教育の目標」)を踏まえ、「付けさせたい力」を考え、関連する教育活動を整理する。

2 展開

時間(分)	ねらい	手順	留意点	準備物
Step1 アイスブレイキング				
15	○研修のねらい、流れ、手順等の確認とメンバーの受容的な雰囲気作り	①グループを作る。 ②アイスブレイク(もし、違う仕事に就くとしたら、中学校の頃の自分などテーマを決めて自己紹介を行う)をする。 ③役割(司会、記録、発表者等)を決める。	●4～5名のグループを作る。 ●時間を決めて行う。	□タマー
Step2 洗い出し&整理				
20	○自校の生徒に「身に付けさせたい力」の洗い出しと整理	①「現状」「目指すべき生徒の姿」を踏まえ、どんな力を身に付けさせたいか、各自が付箋紙にできるだけたくさん書く。 ②模造紙に貼りながら、類似したものを他のメンバーも貼っていく。 ③類似したものを線で囲み、それぞれの囲みにタイトルを付ける。	●声を出し、コミュニケーションを図りながら行う。 ●付箋紙は1人10枚を目標にする。	□模造紙 □付箋紙 □ペン □タマー
20	○「身に付けさせたい力」に関連する取組を整理する	①「身に付けさせたい力」に関連する取組を付箋紙にできるだけたくさん書く。 ②模造紙に貼りながら、類似したものを他のメンバーも貼っていく。 ③1年から3年にかけて、関連する活動をつなぎ、それぞれの活動のつながりと、身に付けさせたい力を明らかにしていく。	●行事だけでもよいが、教科の内容なども入れるとより断片をつなげられる。 	
20	○全体で「身に付けさせたい力」とその取組をまとめる	①各班で出た意見を発表する。 ②全体で協議しながら「身に付けさせたい力」とその取組の整理を行う。	●取組に偏りや重なりがあれば、スクラップを検討する。	
Step3 まとめ				
15	○ふりかえり	①全体でふり回り、決定、共有を行う。		



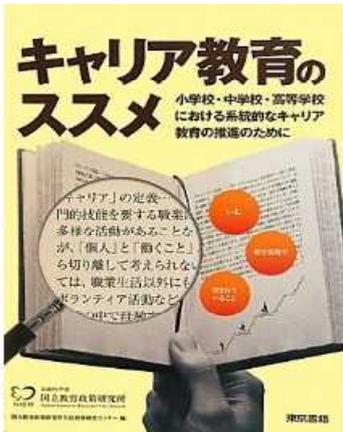
キャリア教育の参考資料



平成23年度宮崎県学校教育改革推進協議会
 <報告>
 宮崎県学校教育改革推進協議会



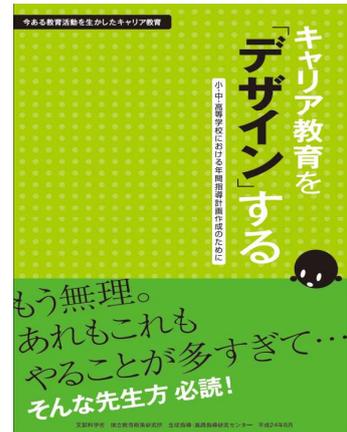
小学校<改訂版>・中学校・高等学校
 キャリア教育の手引き
 文部科学省



キャリア教育のススメ
 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター



キャリア教育を創る
 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター



キャリア教育を「デザイン」する
 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター



自分に気付き、未来を築くキャリア教育
 小学校におけるキャリア教育推進のために
 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター



キャリア教育って結局何なんだ?
 中学校におけるキャリア教育推進のために
 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター



キャリア教育は生徒に何ができるのだろうか?
 高等学校におけるキャリア教育推進のために
 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター

宮崎県キャリア教育ガイドライン

－小・中・高等学校等12年間を見通した宮崎のキャリア教育－

発 行	平成25年1月31日
発 行 者	宮崎県教育庁 学校政策課
作 成 担 当	学校教育計画担当
住 所	〒880-8502 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号
電 話	0985-26-7237 (代表)
F A X	0985-26-0721
H P 掲 載	教育ネットひむか http://himuka.miyazaki-c.ed.jp/
